



Transit XV

フィルタ

© 2004 株式会社シュタールジャパン

無断複写・転載を禁じます。著作権のあるこの出版物の内容を全体または一部を許可なく複製することを禁じます。この禁止事項は特にトレーニングや電子システムへの内容の利用に適用されます。

この出版物の内容は弊社のできる限りの知識と能力を使用してチェック済みですが、運用によってもたらされた、あるいは関連するいかなる損失に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

STAR AG
Wiesholz 35 · CH-8262 Ramsen · Switzerland
www.star-group.net

STAR Language Technology & Solutions GmbH
Schönaicher Str. 19 · D-71032 Böblingen · Germany
www.star-solutions.net

登録商標

すべての製品名は、各社の登録商標です。

1	はじめに	
1.1	マニュアル	7
1.1.1	インストール CD にあるマニュアル	7
1.1.2	移行に関するマニュアル	8
1.1.3	上級ユーザのための特別なマニュアル	8
1.1.4	ウェブサイト上の最新マニュアル	8
1.2	記号および表記規則	9
2	基礎知識	
3	標準フィルタ	
3.1	概要	15
3.2	Excel	15
3.2.1	高速保存	15
3.3	HTML	15
3.3.1	文字コード	15
3.3.2	HTML プロジェクトのフォルダ構成	16
3.4	PowerPoint	17
3.4.1	WordArt の要素	17
3.4.2	高速保存	17
3.4.3	PowerPoint ファイルの特殊なファイルタイプの設定	18
3.4.4	翻訳後のレイアウト修正	19
3.5	QuarkXPress	19
3.5.1	概要	19
3.5.2	テキストボックスの連結	21
3.5.3	QuarkXPress 文書からテキストファイルの作成	22
3.5.4	Macintosh から Windows への変換	23
3.6	リソースファイル	24
3.6.1	特殊なファイルタイプの設定	24
3.7	SGML/XML	25
3.8	SVG	25
3.9	テキストファイル	26
3.9.1	ANSI テキストファイル上での西ヨーロッパ言語以外の表示	26
3.9.2	ファイル形式 - 1 new line、2 new lines	27

3.10	Word	28
3.10.1	WordArt の要素	28
3.10.2	高速保存	28
3.10.3	埋め込みオブジェクト	28
3.10.4	Word 上での変換履歴	28
3.11	ヘルプファイル用 Word	29

4 オプションフィルタ

4.1	概要	31
4.2	AutoCAD	31
4.2.1	概要	31
4.2.2	Transit へインポートするために文書を dxf として保存	32
4.2.3	翻訳済みの dxf ファイルを dwg ファイルとして保存	32
4.3	FrameMaker	33
4.3.1	概要	33
4.3.2	FrameMaker 文書を MIF ファイルとして保存	33
4.3.3	翻訳済みの MIF ファイルを FrameMaker 文書として保存	33
4.3.4	FrameMaker の特殊なファイルタイプの設定	35
4.3.5	どのテキストの翻訳が必要?	36
4.3.6	宣言部のテキストの翻訳	38
4.3.7	コンディショナルテキストの表示	39
4.3.8	相互参照の表示	39
4.3.9	長い索引マーカ	39
4.4	InDesign	40
4.4.1	概要	40
4.4.2	InDesign 文書を Transit 用にエクスポート	40
4.4.3	翻訳済みファイルを InDesign 文書として保存	41
4.5	Interleaf	42
4.5.1	概要	42
4.5.2	Transit へインポートするために Interleaf 文書を ASCII 形式 で保存	42
4.5.3	翻訳済みの ASCII ファイルをバイナリ形式として保存	43
4.5.4	複数のサブフォルダが含まれる Interleaf プロジェクトの翻訳 ..	43
4.6	PageMaker	44
4.6.1	非表示のレイヤーを翻訳	44
4.6.2	PageMaker のインストール	46
4.6.3	PageMaker のバージョンが異なる場合のエクスポート メッセージ	47
4.6.4	PageMaker インポートの改善	47
4.6.5	エクスポート済み文書の「タグ付きテキスト」	48

4.6.6	DDE 接続	48
4.6.7	PageMaker を Transit でインポートするときの改善のヒント ...	48
4.6.8	Macintosh 版 PageMaker ファイル	49
4.7	Visio	49
4.7.1	Transit へインポートするために Visio 文書を XML drawing として保存	50
4.7.2	翻訳済みの XML drawing を Visio 文書として保存	50
4.8	XGate	51

5 付録

5.1	ファイルの要素	53
5.2	pm.ini ファイルのパラメータ	54



1 はじめに

1.1 マニュアル

翻訳のプロセスにおいて Transit と TermStar はとても強力なツールとなります。広範囲をカバーするマニュアルにしたがって、Transit および TermStar を最適に使用し、正確な情報をすぐに仕事に役立てることができます。

1.1.1 インストール CD にあるマニュアル

インストール CD をスタートさせて [**マニュアル**] をクリックするとインストール CD から直接重要なマニュアルを見ることができます。

- Transit/TermStar XV - インストール
Transit XV と TermStar XV のインストールとアップグレードインストール
- Transit XV - ユーザガイド
Transit を使用する作業の基礎
- TermStar XV - ユーザガイド
TermStar を使用する作業の基礎
- Transit/TermStar XV - リファレンスガイド
Transit と TermStar の上級ユーザのための特別な機能
- Transit XV - アライメントツール
既存の翻訳からの参照マテリアルの作成
- Transit XV - フィルタ
インポート可能なファイル形式に関する情報とヒント
- TermStar XV - インポート / エクスポート
TermStar 辞書のエクスポート、辞書のマージ、および TermStar 辞書へのインポート

1.1.2 移行に関するマニュアル

Transit/TermStar をインストールすると、Windows のスタートメニューから (Windows メニューの [スタート] [プログラム] [Transit XV] [Transit 2.x からの移行] または [Transit 3.0 からの移行]) 追補のマニュアルを呼び出せます。

- TermStar/Transit XV - 2.x からの移行
2.x から XV への移行
- TermStar/Transit XV - 2.x との比較
XV の新しい特徴と改善点および 2.7 と XV の機能比較
- TermStar/Transit XV - 2.x とのデータ交換
XV のプロジェクトマネージャーと 2.7 の翻訳者間でのデータ交換およびその逆のデータ交換
- TermStar/Transit XV - 3.0 とのデータ交換
データ交換、移行および 3.0 と XV の比較

1.1.3 上級ユーザのための特別なマニュアル

特定の仕事、分野を扱う上級ユーザのための追補のマニュアルが用意されています。これらのマニュアルはリクエストにより提供されます。

- Transit XV - Transit を外部から起動するための API パラメータ
Transit が開始される時のさまざまな機能の自動実行と選択されたプロジェクトのパラメータ
- Transit XV - ファイル形式定義のカスタマイズ
インポート/エクスポート時にフィルタやセグメンテーションに使用するファイル形式定義のカスタマイズ
- TermStar XV - SQL データベースとの接続
TermStar と SQL データベースとの接続および TermStar での使用

1.1.4 ウェブサイト上の最新マニュアル

マニュアルの最新版およびその他ドキュメントは、www.star-solutions.net の [Support] [Download Center] からダウンロードできます。

1.2 記号および表記規則

このマニュアルでは分かりやすいように特殊記号およびフォントを使用しています。表では使用されている記号とフォントおよびその意味が表記されています 1-1。

記号およびフォント	説明
	<p>警告</p> <p>重大なエラーの警告。この警告を無視するとデータを損失することがあります。</p>
	<p>注意</p> <p>作業に影響するエラーを避けるための重要な注意書き。</p>
	<p>情報</p> <p>作業を簡単にするための注意書きまたはヒント。</p>
	<p>手順</p> <p>指示を実行するときの手順。</p>
[編集][検索] をクリックします。	<p>メニュー</p> <p>メニュー、オプションとボタンは、太字で表示されています。縦棒 () は、メニューとサブメニューを区別します。</p> <p>左の例の意味：[編集]メニューをクリックし、[検索]機能を選択する。</p>
Ctrl+F4 を押します。	<p>ショートカット</p> <p>この手順は Ctrl キーを押しながら F4 キーを同時に押す必要があることを意味しています。</p>
Ctrl+Q, E を押します。	<p>左の例の意味：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Ctrl と Q を同時に押す。 ▪ その後、E を押す。

表 1-1: 記号および表記規則

記号およびフォント	説明
用語 <i>valve</i> を入力します。	ユーザ入力 <i>明朝斜体</i> フォントで示されている文字をキーボードを使用して入力することを意味しています。
< 検索テキスト > を入力します。 < ファイル名 > を選択します。	変数 不等号で囲まれた任意のテキストは不等号で囲まれた具体的な値に置き換える必要があります。
lddd.rbe ファイルは \config\global フォルダ内にあります。	ファイル名 ファイルとフォルダの名前は、明朝フォントで表示されます。

表 1-1: 記号および表記規則 (続き)



メニュー、ショートカット、アイコンでの機能の呼出し

このマニュアルでは機能をメニューで呼び出す方法について説明しています。しかし、ショートカット、アイコン、コンテキストメニューでも多くの機能の呼び出しができます。

キーボードショートカットおよび使用可能なアイコンの概要は、Transit ユーザガイドの付録を参照してください。

2 基礎知識

Transit は数多くの DTP ソフトおよびワープロソフトで作成されたファイルをインポートできます。Transit でインポート可能なファイル形式を表 2-1 にまとめてあります。詳細は、示されている各セクションを参照してください。

ファイル形式	サポートされているバージョン／詳細	Transit でのファイルタイプ
AutoCAD	dxf ファイル <ul style="list-style-type: none"> ▪ 別売りフィルタ ▪ サポートされているバージョン：AutoCAD Release 13 - 14 4.2 "AutoCAD" : 31 ページ を参照。	AutoCAD (DXF)
Excel	<ul style="list-style-type: none"> ▪ サポートされているバージョン：Excel 97/2000/XP 3.2 "Excel" : 15 ページ を参照。	MS Excel 97/2000/XP
FrameMaker	mif ファイル <ul style="list-style-type: none"> ▪ 別売りフィルタ ▪ サポートされているバージョン：FrameMaker 4.0- 7.0 4.3 "FrameMaker" : 33 ページ を参照。	Adobe FrameMaker (MIF)
HTML	<ul style="list-style-type: none"> ▪ サポートされているバージョン：4.0 までのバージョンすべて 3.3 "HTML" : 15 ページ を参照。	<ul style="list-style-type: none"> ▪ HTML 4.x ▪ HTML 4.x Unicode
InDesign	InDesign のプラグイン経由 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 別売りフィルタ ▪ サポートされているバージョン：InDesign 1.5/2.0/CS 4.4 "InDesign" : 40 ページ を参照。	Adobe InDesign
Interleaf	ASCII 形式 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 別売りフィルタ ▪ サポートされているバージョン：Interleaf 4.x-7.x 4.5 "Interleaf" : 42 ページ を参照。	Interleaf 4.x-7.x

表 2-1: ファイル形式

ファイル形式	サポートされているバージョン／詳細	Transit での ファイルタイプ
PageMaker	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 別売りフィルタ ▪ サポートされているバージョン： PageMaker 6.0 – 7.0 4.6 "PageMaker" : 44 ページ を参照。	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Pagemaker 6.0 ▪ Pagemaker 6.5 ▪ Pagemaker 7.0
PowerPoint	<ul style="list-style-type: none"> ▪ サポートされているバージョン： PowerPoint 97/2000/XP 3.4 "PowerPoint" : 17 ページ を参照。	MS PowerPoint 97/2000/XP
QuarkXPress	QuarkXPress のテキスト <ul style="list-style-type: none"> ▪ サポートされているバージョン： QuarkXPress 3.3.x – 4.1.x 3.5 "QuarkXPress" : 19 ページ を参照。	<ul style="list-style-type: none"> ▪ QuarkXPress (Windows) ▪ QuarkXPress (Macintosh)
	「XGate」でエクスポートされたデータ <ul style="list-style-type: none"> ▪ 別売りフィルタ 4.8 "XGate" : 51 ページ を参照。	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Quark XGate (Windows) ▪ Quark XGate (Macintosh)
リソースファイル	3.6 "リソースファイル" : 24 ページ を参照。	Resource Files
RTF	<ul style="list-style-type: none"> ▪ サポートされているバージョン： RTF 1.4 – 1.5 	RTF 1.x
Winhelp 用 RTF	<ul style="list-style-type: none"> ▪ サポートされているバージョン： RTF 1.4 – 1.5 	Help files RTF 1.x
SGML	3.7 "SGML/XML" : 25 ページ を参照。	SGML
SVG	<ul style="list-style-type: none"> ▪ サポートされているバージョン： SVG 1.0 3.8 "SVG" : 25 ページ を参照。	SVG

表 2-1: ファイル形式 (続き)

ファイル形式	サポートされているバージョン／詳細	Transit での ファイルタイプ
テキストファイル	▪ ANSI コードのテキストファイル	▪ Text (ANSI) 1 new line ▪ Text (ANSI) 2 new lines
	▪ ASCII コードのテキストファイル	▪ Text (MS-DOS) 1 new line ▪ Text (MS-DOS) 2 new lines
	▪ Macintosh で作成したテキストファイル	▪ Text (Macintosh) 1 new line ▪ Text (Macintosh) 2 new lines
	▪ UNIX で作成したテキストファイル	▪ Text (UNIX/ISO-8859-X) 1 new line ▪ Text (UNIX/ISO-8859-X) 2 Newlines
	▪ Unicode のテキストファイル	▪ Text (Unicode) 1 new line ▪ Text (Unicode) 2 new lines ▪ Text (UTF-8) 1 new line ▪ Text (UTF-8) 2 new lines
3.9 "テキストファイル" : 26 ページ を参照。		
Visio	XML drawing ▪ 別売りフィルタ ▪ サポートされているバージョン : Visio 2002/2003 4.7 "Visio" : 49 ページ を参照。	Visio 2002/2003 XML
Word	▪ サポートされているバージョン : Word 6/95/97/2000/XP 3.10 "Word" : 28 ページ を参照。	MS Word f. Windows 95/97/2000/XP

表 2-1: ファイル形式 (続き)

ファイル形式	サポートされているバージョン／詳細	Transit での ファイルタイプ
ヘルプファイル用 Word	<ul style="list-style-type: none"> ▪ サポートされているバージョン： Word 95/97/2000/XP 3.11 "ヘルプファイル用 Word" : 29 ページ を参照。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Helpfiles Word f. Windows 95/97/2000/XP ▪ Helpfiles Ver. 2, MS Word f. Windows 95/97/2000/XP
WordPerfect	<ul style="list-style-type: none"> ▪ サポートされているバージョン： WordPerfect 5 – 10 	WordPerfect 5/6.x/7/8/9/10
XML	3.7 "SGML/XML" : 25 ページ を参照。	XML

表 2-1: ファイル形式 (続き)

3 標準フィルタ

3.1 概要

Transit の標準フィルタに関する重要情報が、このセクションにまとめてあります。別売りフィルタについては 4 "オプションフィルタ": 31 ページを参照してください。

インポート可能なすべてのファイル形式および使用可能なファイルの種類については 2 "基礎知識": 11 ページを参照してください。

3.2 Excel

3.2.1 高速保存

[**高速保存**] オプションを使用して保存した MS Office ドキュメントはインポートできません。

高速保存されたファイルをインポートするための準備

- 1 該当するアプリケーション (Word、Excel、PowerPoint) で、ファイルを開きます。
- 2 [**高速保存**] オプションが使用されていないことを確認します。必要に応じて、[ツール][オプション]メニューの[保存]タブで、[**高速保存**]オプションを非選択します。
- 3 ファイルを再保存します。

以上で、ファイルを通常とおりに Transit へインポートできます。



3.3 HTML

3.3.1 文字コード

Transit で使用可能な HTML のバージョンは以下のとおりです。

- HTML 4.x
- HTML 4.x Unicode

フィルタを選択し、HTML ファイルの翻訳が終了した後にエクスポートする方法を指定します。特殊文字が ANSI 文字にエンコードされるか、Unicode 文字にエンコードされるかは選択したフィルタによって異なります。



顧客の文字書式の確認

顧客から受け取った HTML ファイルに、どのような種類の文字コードが使用されているかが不明な場合があります。したがって、どの文字コードが使用されているかについては顧客に確認してください。

文字コードは Transit 上でのインポートとは関係ありません。エディタ上での翻訳作業のため、特殊文字はすべて自動的に Unicode 文字に変換されます。

3.3.2 HTML プロジェクトのフォルダ構成

一般的に HTML プロジェクトでは、多数のサブフォルダそれぞれに多数の HTML ファイルが保存されており、各ファイルはクロスリファレンスが設定されています。Transit にはそうした HTML プロジェクトでの作業を容易にする機能が 2 つあります。

- フォルダおよびサブフォルダでのインポート

[プロジェクト] [設定] メニューで [ファイル] タブを選択してインポートするファイルを指定する場合、フォルダおよびその中のサブフォルダをすべて選択できます (図 3-1)。

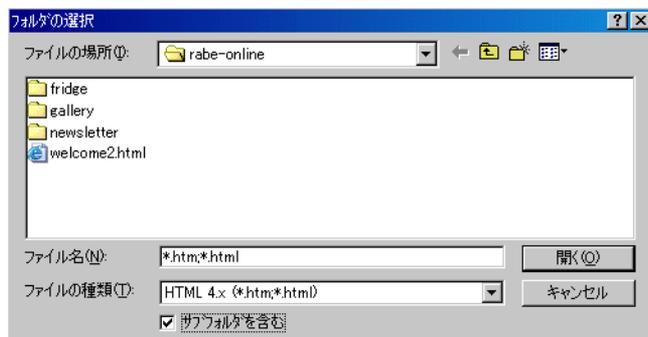


図 3-1: [サブフォルダを含む] オプションでフォルダを選択

以下の手順で作業が行われます。

- 選択したフォルダおよびサブフォルダの HTML ファイルがすべてインポートされます。

したがって、1 つずつフォルダまたはサブフォルダを指定し、HTML ファイルをインポートをする必要はありません。

- エクスポート時、同じフォルダ構成が作成され、HTML ファイルが各フォルダにエクスポートされます。

HTML ファイルをエクスポートした後、自分で各フォルダに「分類する」必要はありません。

- ランゲージペアをグローバルで開く

HTML プロジェクトでは通常、容量の小さい数多くの HTML ファイルをインポートします。HTML ファイルそれぞれに対してランゲージペアが作成されます。

複数のランゲージペアを開く場合、グローバルで開くことができます (図 3-2)。

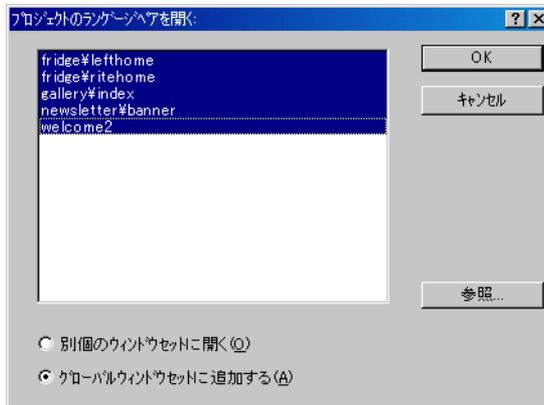


図 3-2: [グローバルウィンドウセットに追加する] で複数のランゲージペアを開く

1つのウィンドウに選択したすべてのランゲージペアが表示されます。1つのファイルを開いているように、複数のランゲージペアを翻訳および編集できます。こうすると、開いているすべてのランゲージペア上で、[検索]、[置換]、[スペルチェック]などの機能を一括して使用できます。

3.4 PowerPoint

3.4.1 WordArt の要素

PowerPoint や Word のファイルに挿入されている WordArt の要素は Transit では表示されません。

3.4.2 高速保存

[高速保存] オプションを使用して保存した MS Office ドキュメントはインポートできません。



高速保存されたファイルをインポートするための準備

- 1 該当するアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）で、ファイルを開きます。
 - 2 **[高速保存]** オプションが使用されていないことを確認します。必要に応じて、**[ツール][オプション]** メニューの **[保存]** タブで、**[高速保存]** オプションを非選択します。
 - 3 ファイルを再保存します。
- 以上で、ファイルを通常とおりに Transit へインポートできます。

3.4.3 PowerPoint ファイルの特殊なファイルタイプの設定

PowerPoint ファイルのファイルタイプの設定では 2 つの特殊なオプションがあります（図 3-3）。



図 3-3: PowerPoint ファイルの特殊なファイルタイプの設定

- マスタページ

PowerPoint では、マスタページを使用し、ヘッダやフッタなどすべてのスライド上で表示するテキストを指定します。通常これらのテキストは翻訳が必要ですが、翻訳が不要な場合もあります。

マスタページをインポートするか指定し、翻訳できるようにします。

- マスタページをインポートしない場合、**[マスタページの非表示]** を選択します。マスタページは翻訳されません。エクスポートの段階で再度、ソース言語のマスタページが取り込まれます。
- **[マスタページの非表示]** を選択しない場合、マスタページがインポートされ、翻訳が可能になります。

- 注釈

PowerPoint では、プレゼンテーション用のコメントなど、スライド上以外でもメモを記入できます。通常これらのテキストは翻訳が必要ですが、翻訳が不要な場合もあります。

注釈をインポートするか指定し、翻訳できるようにします。

- 注釈をインポートしない場合、[注釈の非表示]を選択します。マスターページは翻訳されません。エクスポートの段階で再度、ソース言語の注釈が取り込まれます。
- [注釈の非表示]を選択しない場合、注釈がインポートされ、翻訳が可能になります。

3.4.4 翻訳後のレイアウト修正

PowerPoint でフィールドとフレームのサイズが設定がされているため、翻訳後にレイアウトの修正が必要です。

3.5 QuarkXPress

3.5.1 概要

QuarkXPress ファイルを Transit で翻訳する場合、はじめに QuarkXPress ファイルからテキストをエクスポートします。以下の手順が必要です。

- テキストボックスの連結
(3.5.2 "テキストボックスの連結" : 21 ページ 参照)
- QuarkXPress 文書からテキストファイルの作成
(3.5.3 "QuarkXPress 文書からテキストファイルの作成" : 22 ページ 参照)
- Macintosh から Windows への変換
(3.5.4 "Macintosh から Windows への変換" : 23 ページ 参照)

QuarkXPress XTension 「XGate」

上記の手順では非常に時間がかかります。

QuarkXPress ファイルを Transit 上で作業できる形式にする最も容易な方法は、QuarkXPress XTension 「XGate」を使用することです。この場合、QuarkXPress のドキュメントは Transit 用の特殊なファイル形式で保存されます。

XGate はテキストをレイアウト情報から分離します。レイアウト情報についての「タグ」がテキストに付随されます。XGate を使用すれば、テキストボックスが連結されていても特に問題ありません。

Transit でこのテキストファイルをインポートし、翻訳できます。エクスポートした翻訳済みのテキストファイルを XGate で QuarkXPress に取り込むと、自動的にオリジナルのレイアウトが再現されます。



QuarkXPress 文書进行处理する際に使用可能なほかのオプション、およびオプションで必要な各手順については、表 3-1 を参照してください。

	XGate	XPress タグでの文書テキストの保存	フォーマットされていないテキストの保存	手動でのテキストの生成
テキストボックスの処理	不要	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 手動でリンクを貼る または ▪ 各フレームを個別にエクスポート 		
QuarkXPress からのエクスポート	XGate のメニュー	XPress タグ付きテキストを保存	テキストの保存	<ul style="list-style-type: none"> ▪ QuarkXPress でコピー ▪ テキストエディタへペースト
(必要に応じて) MAC から Windows へ変換	自動	Transit		
Transit へインポート				
Transit でのファイルタイプ	Quark XGate	QuarkXPress (Macintosh)	Text (Macintosh)	
Transit での翻訳、Transit からのエクスポート				
(必要に応じて) Windows から MAC へ変換	自動	Transit	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Windows からテキストをロード または ▪ Transit 	
翻訳テキストを QuarkXPress へインポート	XGate のメニュー	テキストを適切なテキストボックスに取り込む (スタイルシートを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 適切なテキストフレームへテキストをロード または ▪ テキストエディタでテキストをコピー ▪ QuarkXPress で適切なテキストフレームへペースト 	
段落および文字書式の割当て	自動		手動	自動

表 3-1: QuarkXPress 文書进行处理する際に使用可能なオプションおよび手順

3.5.2 テキストボックスの連結

QuarkXPress ではテキストを入力する「テキストボックス」を使用して作業します。したがって、文書には複数のテキストボックスが含まれます。

あるテキストボックスから別のテキストボックスにまたがっているテキストがある場合、テキストボックスどうしを連結させることができます。テキストボックスを手動で連結させるには時間と労力が必要とされます。したがって、文書内のテキストボックスはあまり連結されていません。

テキストボックスが連結されているかどうかにより、QuarkXPress からエクスポートし、Transit でインポートする場合の作業方法が異なります。

- 連結されていないテキストボックス

連結されていない複数のテキストボックスから、ひとつずつテキストファイルが QuarkXPress によって生成されます。

生成されたテキストファイルをすべて Transit でインポートします。Transit で翻訳した後、プロジェクトをエクスポートするとターゲット言語のテキストファイルが生成されます。

そして翻訳済みのテキストファイルから、テキストを QuarkXPress ファイルの適切なテキストボックスへコピーします。
- 連結されているテキストボックス

複数の連結されたテキストボックスから、ひとつの共通のテキストファイルが QuarkXPress によって生成されます。

生成されたテキストファイルを Transit でインポートします。Transit で翻訳した後、プロジェクトをエクスポートするとターゲット言語のテキストファイルが生成されます。

そして翻訳済みのテキストファイルから、テキストを QuarkXPress ファイルのテキストボックスへコピーします。

ヒント：連結されたテキストボックスの使用

通常、連結されているテキストボックスを使用して作業する方が簡単です。したがって、QuarkXPress 上で Text ファイルを生成する前にテキストボックスを連結させることを推奨します。



QuarkXPress 上でテキストボックスを連結させる方法

- 1 QuarkXPress 上で QuarkXPress ファイルを開きます。
- 2 最初のテキストボックスの末尾にオーバーフロー記号（X が付いた小さい四角）をつけます。まずテキストボックスをクリックします。ツールパレットから編集ツールを選択し、テキストボックスをクリックします。そして、テンキーの Enter キーを押します。

オーバーフロー記号がテキストボックスの末尾に表示されます。
- 3 2 番目のテキストボックスをクリックします。テキストをすべて選択して反転表示させ、切り取ります。



- 4 ツールパレットの連結ツール（図 3-4）をクリックし、連結ポインタで最初のテキストボックスをクリックします。



図 3-4: 連結ツール

テキストボックスの周囲にマーカーが表示されます。

- 5 2 番目のテキストボックスを連結ツールでクリックします。
連結関係を示す矢印が表示され、最初のテキストボックスから 2 番目のテキストボックスを示します。2 つのテキストボックスは連結されます（図 3-5）。



図 3-5: 連結されたテキストボックス

- 6 ツールパレットから編集ツールを再度選択し、2 番目のテキストボックスを選択します。
- 7 テキストをクリップボードから 2 番目のテキストボックスに貼り付けます。
- 8 ファイルを保存します。
- 9 2 番目および 3 番目のテキストボックスでも手順 2 から 7 を繰り返します。3 番目のテキストボックスからテキストを切り取り、2 番目および 3 番目のテキストボックスを連結させ、3 番目のテキストボックスにテキストを貼り付けます。
- 10 すべてのフレームを連結させるまでこのステップを繰り返します。

3.5.3 QuarkXPress 文書からテキストファイルの作成

QuarkXPress 文書を Transit へインポートするには、テキストファイルを作成する必要があります。



ファイル名を変更するだけでなく、テキストをエクスポート

ファイル拡張子を qxp から xtg または txt などに変更するだけでは不十分です。QuarkXPress 文書をエクスポートしないで Transit にインポートした場合、Macintosh 版または Windows 版に関係なく、文字が正しく表示されません。

QuarkXPress からテキストをファイルに保存する際、以下のオプションがあります。

- フォーマット 情報を含むテキストファイル
 QuarkXPress からエクスポートされたテキストを「XPress タグ」と一緒に保存できます。XPress タグにはレイアウト情報が含まれているので、段落および文字のためのスタイルシートも保存されます。翻訳後に QuarkXPress でテキストを再度読み込むと、テキストはフォーマットされます。
 この場合、Transit で以下のフィルタのうち 1 つを使用してください。
 - QuarkXPress (Macintosh)
 - QuarkXPress (Windows) - テキストファイルが ANSI に変換されている場合
 翻訳済みのテキストを QuarkXPress で再度読み込む場合、**[スタイルシートを含む]**を選択すれば、フォーマット情報が QuarkXPress タグに変換されます。
- フォーマットされていないテキストファイル
 QuarkXPress からエクスポートされたテキストを、フォーマットされていないテキストとして保存できます。こうすると、フォーマット情報はすべて失われます。翻訳後、テキストを QuarkXPress で再度読み込む場合、テキストを再フォーマットする必要があります。
 この場合、Transit で以下のフィルタのうち 1 つを使用してください。
 - Text (Macintosh)
 - Text (Ansi) - テキストファイルが ANSI に変換されている場合
- 手動でのテキストファイル生成
 QuarkXPress のエクスポート機能を使用せずに、QuarkXPress からテキストを「エクスポート」できます。QuarkXPress ファイルからテキストをコピーし、Mac のテキストエディタに貼り付けます。
 この場合、Transit で以下のフィルタのうち 1 つを使用してください。
 - QuarkXPress (Macintosh)
 - QuarkXPress (Windows) - テキストファイルが ANSI に変換されている場合
 Transit で翻訳後、Mac のテキストエディタでターゲット言語テキストを表示させ、適切なテキストボックスに貼り付けます。

3.5.4 Macintosh から Windows への変換

Macintosh 版 QuarkXPress ファイルを変換し、Transit で編集できるようにします。変換は Macintosh の変換プログラムまたは Transit で自動的に実行できます。

推奨 : Transit での変換

変換は Transit で実行することを推奨します。



インポートおよびエクスポート時にテキストがまったく変換されていない、または二重に変換されていないか確認してください。以下のオプションのいずれかを選択します。

- **Macintosh 上で変換**
Macintosh 上の変換プログラムでテキストを ANSI 形式に変換します。Transit で、ファイルタイプに [QuarkXPress (Windows)] または [Text (ANSI)] を選択します。
- **Transit 上で変換**
Macintosh 上でファイルを Macintosh 形式で保存します。Transit で、ファイルタイプに [QuarkXPress (Macintosh)] または [Text (Macintosh)] を選択します。

ソース言語テキストおよびターゲット言語テキストの変換は、同じシステム上で実行してください。両方を、Macintosh 上または Transit 上で変換します。これは、Transit へインポートするための変換と同様、翻訳したデータを QuarkXPress でインポートするための変換にもあてはまります。

3.6 リソースファイル

3.6.1 特殊なファイルタイプの設定

ファイルタイプに [Resource Files] を選択した場合、ファイルタイプの設定で特殊オプションが表示されます (図 3-6)。

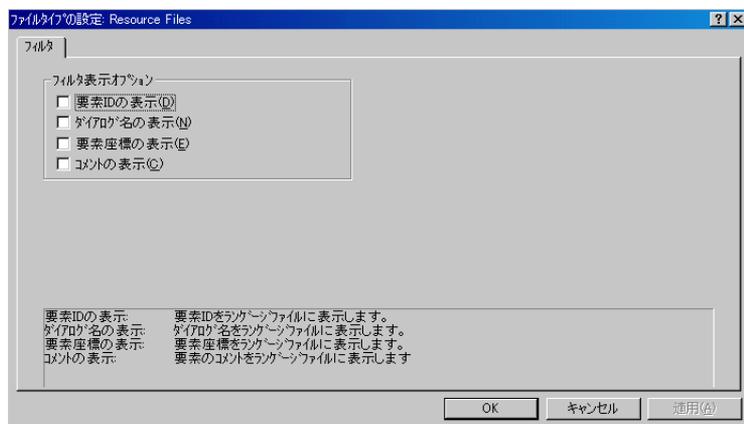


図 3-6: リソースファイルの特殊なファイルタイプの設定

- **[要素 ID の表示]**
このオプションを選択すると、個々のエレメント ID がインポートされ、ランゲージファイルに表示されます。

- **[ダイアログ名の表示]**
このオプションを選択すると、ダイアログ名がインポートされ、ランゲージファイルに表示されます。
- **[要素座標の表示]**
このオプションを選択すると、個々の要素座標がインポートされ、ランゲージファイルに表示されます。
- **[コメントの表示]**
このオプションを選択すると、個々の要素のコメントがインポートされ、ランゲージファイルに表示されます。

Transit では、ランゲージファイルに表示されるテキストのみが翻訳できます。

これらのオプションを選択しない場合、隠し要素は他のフォーマット情報とともに cod ファイルに保存され、エクスポートの段階でターゲット言語内に取り込まれません。

3.7 SGML/XML

SGML および XML 文書は「DTD」(Document Type Definition) に基き、その要素の構造、変換、内容、手段が定義されています。通常、DTD はプロジェクト、顧客、文書に合わせて最適化されています。したがって、SGML および XML 文書の構造はプロジェクト、顧客、文書作成によりさまざまです。

できるだけ広範囲の SGML および XML 文書の処理を可能にするため、SGML および XML の DTD はごく一般的なものを想定しています。したがって、ユーザによってカスタマイズされた DTD を考慮できません。ユーザの DTD の特徴に合わせてフィルタを最適化することは必要であり、有益でもあります。

3.8 SVG

SVG について

SVG (Scalable Vector Graphics) は、XML の原理でグラフィックの内容が定義されたグラフィックの形式です。

SVG にはグラフィック全体が、標準の ASCII テキストで記述されています。結果として、ほかの形式の同様のグラフィックに比較すると、SVG ファイルの容量は小さめです。これは Internet 上でのベクトルグラフィックスとしての大きな利点です。



翻訳作業における主な利点は、グラフィックの要素が ASCII テキストとして使用可能であるということです。グラフィックファイルが作成されたアプリケーションがなくても、翻訳者がグラフィックのテキストに直接アクセスできます。純粋なラスターグラフィックスでは、テキストにはアクセスできません。例えば、ビットマップではテキストはテキストとしてではなく、個々のピクセルとして保存されます。

SVG 形式の仕様は、数多くのソフトウェアおよびハードウェア製造業者の協力を得て、World Wide Web Consortium (W3C) により定められています。SVG は、近い将来、オープンでライセンスフリーの標準グラフィックになることが期待されています。

グラフィックプログラム製造業者の多くが、現在も SVG の改善に従事しています。Transit XV はすでに SVG をサポートしています。



正しい翻訳には正しい SVG が必要

いくつかのグラフィックソフトでは SVG にエクスポートできます。ただし、必ずしも「正確に」はエクスポートされないこともあります。グラフィックで必要不可欠な情報のすべてが SVG ファイルにはエクスポートされないことがあります。このような SVG ファイルは完全であるとはいえません。特定のテキストプロパティ、カラー定義、特殊文字などが消失することがあります。

Transit で翻訳した結果がオリジナルのファイルよりも良くなることはありません。SVG へエクスポートする際に消失されたデータや、グラフィックソフトのエラーを Transit では修正できません。このような状況での結果として、翻訳に関わらず、期待通りの SVG ファイルが作成されるとはかぎりません。

3.9 テキストファイル

3.9.1 ANSI テキストファイル上での西ヨーロッパ言語以外の表示

ANSI テキストファイルを西ヨーロッパ言語以外の言語に翻訳する場合、テキストエディタでは通常、翻訳済みのテキストファイルを正しく表示できません。

例：キリル語の ANSI 文字は西ヨーロッパで使用される OS では表示できません。一方、ロシアで使用される OS では正しく表示されます。

西ヨーロッパで使用される OS でキリル語のテキストファイルを表示する場合、以下にしたがってください。

- Word 2000
 - Word 2000 上でテキストファイルを開きます。
 - 文字変換を指定できるウィンドウが表示されます。

- [キリル文字 (Windows)] をフォントに選択します。
キリル文字が正しく表示されます。
- 文字セットがオプションのテキストエディタ
 - テキストファイルをテキストエディタで開き、文字セットを指定します。
 - テキスト全体を選択します。
 - Arial CYR など、キリル語のフォントを選択します。
 - テキストがキリル語のフォントで表示されます。

3.9.2 ファイル形式 - 1 new line、2 new lines

テキストファイルのファイル形式には 2 種類あります。1 new line および 2 new line です。テキストファイルの種類により、Transit でのセグメンテーションは異なります (表 3-2)。

	1 new line	2 new line
Transit でテキスト上の 1 つの改行を認識する方法	段落の末尾	改行
Transit でテキスト上の 2 つ連続する改行を認識する方法	2 つの段落の末尾 (そのうち 1 段落は空)	段落の末尾
例 1 : 1 つの改行を含むテキストの場合	This is the first paragraph. <- And this is the second.	
Transit 上でのセグメンテーションが段落ごとの場合	改行ごとにセグメンテーション : This is the first paragraph. <69> And this the second. <70>	2 つ連続する改行でセグメンテーション (下記の例ではセグメントマークなし) : This is the first paragraph. And this the second. <69>
例 2 : 2 つ連続する改行を含むテキストの場合	This is the first paragraph. <- <- And this is the second.	
Transit 上でのセグメンテーションが段落ごとの場合	改行ごとにセグメンテーション (空セグメントができる) : This is the first paragraph. <69><70> And this the second. <71>	2 つ連続する改行でセグメンテーション : This is the first paragraph. <69> And this the second. <70>

表 3-2: 1 new line および 2 new line の相違点

1つの文章中に改行が含まれる場合、必ず2 new lines を使用します。そうしないと、文章の途中でセグメンテーションされてしまいます。

3.10 Word

3.10.1 WordArt の要素

PowerPoint や Word のファイルに挿入されている WordArt の要素は Transit では表示されません。

3.10.2 高速保存

[**高速保存**] オプションを使用して保存した MS Office ドキュメントはインポートできません。

高速保存されたファイルをインポートするための準備



- 1 該当するアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）で、ファイルを開きます。
- 2 [**高速保存**] オプションが使用されていないことを確認します。必要に応じて、[**ツール**] [**オプション**] メニューの [**保存**] タブで、[**高速保存**] オプションを非選択します。
- 3 ファイルを再保存します。

以上で、ファイルを通常とおりに Transit へインポートできます。

3.10.3 埋め込みオブジェクト

PowerPoint または Excel で作成したオブジェクトが Word ファイルに埋め込まれていても、Transit でインポートして翻訳できます。

Word ファイルにエクスポートしたら、埋め込みオブジェクトを更新して翻訳済みオブジェクトを表示させてください。

3.10.4 Word 上での変換履歴

Word には変換履歴の機能があります。これにより、文書の修正箇所が強調され、変更を確認できます。

変更を示す記号が多数含まれる文書は Transit 上では、正しくエクスポートされないこともあります。以下のエラーメッセージが表示されます。

「[Filtering] フィルタエラー：内部エラー。」

ソース言語の Word ファイルが完成し、翻訳する準備ができたなら、変更を示す記号は不要のはずです。したがって、Word 文書を Transit でインポートする前に、変更を示す記号を削除します ([ツール] [変更履歴の作成] [変更内容の表示] または [変更内容の確認])。

3.11 ヘルプファイル用 Word

ヘルプファイル用の Word 文書には、以下の 2 つのフィルタがあります。

- Helpfiles Word f. Windows 95/97/2000/XP
- Helpfiles version 2, MS Word f. Windows 95/97/2000/XP

上記 2 つ目のフィルタ (version 2) は、1 つ目のフィルタの改訂版です。互換性のため、2 つのフィルタのどちらかを選択できます。

推奨：新規プロジェクトには version 2

新規プロジェクトに対しては、改善されているフィルタ [helpfiles version 2, MS Word f. Windows 95/97/2000/XP] の使用を推奨します。1 つ目のフィルタで作成された参照マテリアルを容易に使用できます。



4 オプションフィルタ

4.1 概要

標準フィルタとは別に追加購入できるフィルタに関する重要情報を、このセクションにまとめてあります。標準フィルタについては3 "標準フィルタ": 15 ページを参照してください。

インポート可能なすべてのファイル形式および使用可能なファイルの種類については2 "基礎知識": 11 ページを参照してください。

4.2 AutoCAD

4.2.1 概要

AutoCAD と Transit のデータ交換には dxf を用います。

AutoCAD を使用して、文書を dxf ファイルとして保存できます (4.2.2 : 32 ページ参照)。このファイルを Transit へインポートできます。

文書を Transit で翻訳したら、Transit からエクスポートし、エクスポートした dxf ファイルを AutoCAD で開いて dwg ファイルとして保存します (4.2.3 : 32 ページ参照)。

別売りフィルタはライセンス番号によって使用が可能

これらのファイルをインポートするために必要なフィルタはオプションであり、標準装備されていません。フィルタを使用するにはライセンス番号が必要です。Transit をインストールしても希望するオプションフィルタが使用できない場合は、弊社の営業担当にお問合せください。



サポートされている AutoCAD のバージョン

AutoCAD バージョン 14 がサポートされています。このバージョンで dxf として保存されていることを確認してください。



4.2.2 Transit へインポートするために文書を dxf として保存

AutoCAD 文書を Transit で翻訳するため、dxf ファイルとして保存する必要があります。このファイルを Transit でインポートします。



AutoCAD ファイルを dxf ファイルに保存する方法

- 1 文書を AutoCAD で開きます。
- 2 **[File][Save as]** を選択します。
[Save drawings] ウィンドウが表示されます。
 - **[File type]** で [AutoCAD R14/LT98/LT97 DXF (*.dxf)] を選択します。
 - 保存先のフォルダおよびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、**[保存]** をクリックします。

文書は dxf ファイルとして保存されます。このファイルをインポートし、翻訳します。

4.2.3 翻訳済みの dxf ファイルを dwg ファイルとして保存

Transit で翻訳された dxf ファイルを受け取り、AutoCAD で開いて dwg ファイルとして保存できます。



翻訳済みの dxf ファイルを開いて dwg ファイルとして保存する方法

- 1 AutoCAD で、**[File][Open]** を選択します。
[Open file] ウィンドウが表示されます。
 - **[File type]** で [AutoCAD R14/LT98/LT97 DXF (*.dxf)] を選択します。
 - 開く dxf ファイルの保存先およびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、**[開く]** をクリックします。ファイルが開きます。
- 2 **[File][Save as]** を選択します。
[Save drawings] ウィンドウが表示されます。
 - **[File type]** で [AutoCAD ... drawing (*.dwg)] を選択します。
 - 保存先のフォルダおよびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、**[保存]** をクリックします。

文書は dwg ファイルとして保存されます。これで翻訳済みのファイルを dwg ファイルとして使用できます。

4.3 FrameMaker

4.3.1 概要

AutoCAD と Transit のデータ交換には MIF を用います。

FrameMaker を使用して、文書を MIF ファイルとして保存できます (4.3.2 : 33 ページ 参照)。このファイルを Transit へインポートできます。

文書を Transit で翻訳したら、Transit からエクスポートし、FrameMaker でエクスポートしたファイルを開いて保存します (4.3.3 : 33 ページ 参照)。

FrameMaker 文書を翻訳するためのヒントは 4.3.4 : 35 ページ を参照してください。

4.3.2 FrameMaker 文書を MIF ファイルとして保存

FrameMaker 文書を Transit で翻訳するには、FrameMaker を使用して、拡張子が .mif である MIF ファイルに保存する必要があります。このファイルを Transit でインポートします。

FrameMaker 文書を MIF ファイルとして保存する方法

- 1 文書を FrameMaker で開きます。
- 2 **[ファイル]** **[別名で保存]** を選択します。
[文書の保存] ウィンドウが表示されます。
 - **[ファイルの種類]** で、**[MIF (*.mif)]** を選択します。
 - 保存先のフォルダおよびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、**[保存]** をクリックします。

文書は MIF ファイルとして保存されます。このファイルをインポートし、翻訳します。



ヒント：変換ツールを使用する

大量のファイルを MIF 形式で保存する場合、MIF Maker などの MIF 変換ツールの使用を推奨します。これにより、FrameMaker book にあるファイルをすべて MIF ファイルに保存できます。



4.3.3 翻訳済みの MIF ファイルを FrameMaker 文書として保存

Transit で翻訳したファイルを FrameMaker で開き、拡張子が .fm である FrameMaker 文書として保存できます。



翻訳済み MIF ファイルを開いて FrameMaker 文書として保存する方法

- 1 FrameMaker で、[ファイル][開く]を選択します。
[開く]ウィンドウが表示されます。
 - [ファイルの種類]で、[MIF (*.mif)]を選択します。
 - 開く MIF ファイルの保存先およびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、[開く]をクリックします。ファイルが開きます。
- 2 [ファイル][別名で保存]を選択します。
[文書を保存]ウィンドウが表示されます。
 - [ファイルの種類]で、[文書 (*.fm)]を選択します。
 - 保存先のフォルダおよびファイル名を選択します。
 - [ファイル名]フィールドのファイル名の後に、ファイル拡張子「.fm」（ピリオドを含む）が入力されていることを確認します。
拡張子は自動的に追加されないため、自分で拡張子を入力する必要があります。入力しないと、ファイルは正しく保存されません。
 - 選択を確認し、[保存]をクリックします。

文書は MIF ファイルとして保存されます。これで翻訳済みのファイルを FrameMaker 文書として使用できます。

4.3.4 FrameMaker の特殊なファイルタイプの設定

FrameMaker 文書には、本文として表示されるテキストのほかに追加のテキスト要素が含まれている可能性があります。

プロジェクト設定の【ファイルタイプ】タブで、ファイルタイプに [Adobe FrameMaker (MIF)] を選択した場合、追加のオプションを設定できます。

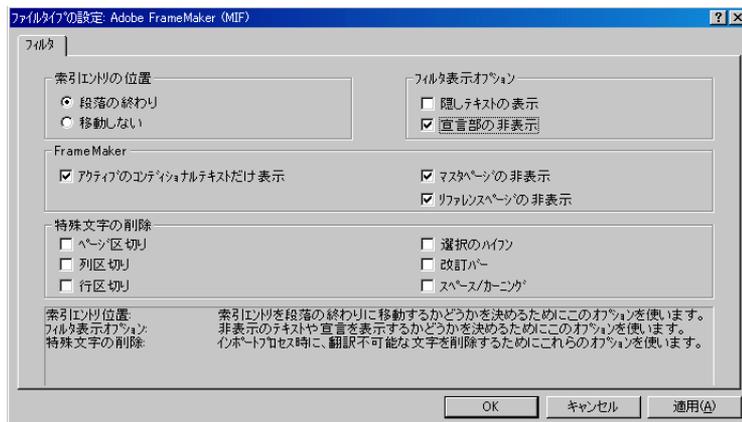


図 4-1: FrameMaker の特殊なファイルタイプの設定

Transit のエディタに表示させるテキストの種類、つまり翻訳すべきテキストをオプションとして選択できません (表 4-1)。Transit エディタに表示されないテキストは変更されず、エクスポート時に元の状態のまま取り込まれます。

テキストの種類	説明	ファイルタイプでの設定
マスタページのテキスト	ページレイアウトの不変要素 例：フッタに表示される文書のタイトル (User's Guide)	マスタページの非表示
リファレンスページのテキスト	上級の定義 (例：HTML へのエクスポート用、索引作成用) リファレンスページのテキストを翻訳する必要があることはごく稀です。翻訳してしまうと FrameMaker が正しく機能しなくなる可能性があります。	リファレンスページの非表示

表 4-1: FrameMaker のテキストの種類と相当する設定

テキストの種類	説明	ファイルタイプでの設定
宣言部のテキスト (例：段落書式、相互参照の書式、変数の内容)	広い意味でのテキスト要素が文書内で繰り返し使用されます。 例： ▪ 相互参照の書式： Abschnitt ... auf Seite ... ▪ 段落書式： Abbildung ...または Schritt ... ▪ 変数のテキスト： 例 - 商品名 Cocoo Clock "Black Forest"	宣言部の非表示
コンディショナルテキスト	FrameMaker では、テキストを表示または非表示させるために、コンディションを割り当てて制御できます。	アクティブのコンディショナルテキストだけ表示

表 4-1: FrameMaker のテキストの種類と相当する設定 (続き)

4.3.5 どのテキストの翻訳が必要？

翻訳が必要なテキストを判断するには、インポートする FrameMaker 文書の構造を把握する必要があります。したがって、以下の推奨は絶対的なものではありません。ただし、構造が的確で、書式が正確に定義されている文書では、以下の推奨は有効であるはずです。

- マスタページのテキスト
翻訳が必要かどうかは、レイアウトとマスタページの内容によります。
推奨：
- マスタページに翻訳が必要なテキストが含まれていない場合、**[マスタページの非表示]**を選択します。
- マスタページに翻訳が必要なテキストが含まれている場合、以降のページに記載されている宣言部を翻訳する方法と同じ手順をとることができます。1ブックの FrameMaker ファイルすべてに1つのマスタページを割り当てると、マスタページの翻訳に費やす労力を軽減できます。宣言部を翻訳する手順は 4.3.6 "宣言部のテキストの翻訳" : 38 ページへ進んで下さい。ただし、**[マスタページの非表示]**を選択してください。
- リファレンスページのテキスト
リファレンスページのテキストを翻訳する必要があることはごく稀です。翻訳してしまうと FrameMaker が正しく機能しなくなる可能性があります。FrameMaker の上級ユーザのみ、リファレンスページの変更が有効です。
推奨：
- リファレンスページはインポートしません。

- 結果：必要な場合に限って、**[リファレンスページの非表示]**を非選択にします。
 - 非表示のコンディショナルテキスト
 翻訳が必要かどうかは使用状況によって異なります。
 - FrameMaker ユーザの内部コメントのみがコンディショナルテキストに含まれているのであれば、通常、翻訳は不要です。
 - 該当する文書用に異なる変数を作成するためにコンディショナルテキストを使用している場合、通常、翻訳は必要とされます。
 この場合、文章の途中に置かれるコンディショナルテキストは、翻訳者の混乱を招き、したがって翻訳労力の増加をもたらす可能性があることに注意してください。
- 一般的には、FrameMaker 内のコンディショナルテキストは Transit ヘインポートする前に削除することを推奨しています。
- 以下の手順を推奨します。
- FrameMaker 内のコンディショナルテキストを削除します。または、アンコンディショナルな（「通常の」）テキストに変換します。
 該当する文書用の異なる変数を作成するためにコンディショナルテキストを使用している場合、異なる変数ごとに FrameMaker ファイルを複製し、1 ファイルずつ翻訳します。1 つめのファイルを翻訳すれば、ほかのファイルで一致するテキストは自動的に置き換えられます。したがって、翻訳が必要なる異なる変数が見つかるのを待つだけですみます。
 - この手順では、Transit にインポートされたファイルにはコンディショナルテキストは含まれません。この場合、**[アクティブのコンディショナルテキストだけ表示]**を重要視する必要はなくなります。

Transit エディタで、インポートされたコンディショナルテキストを表示させる方法は 4.3.7 "コンディショナルテキストの表示" : 39 ページ を参照してください。

- 宣言部のテキスト
 通常、宣言部のテキストは FrameMaker 文書の「通常」のテキストとして表示されるので、翻訳が必要とされます。

表 4-1 : 35 ページ の例 :

- User' s Guide -> Benutzerhandbuch
- Abschnitt ... auf Seite ... -> section ... on page ...
- Abbildung ...、Schritt ... -> Figure ...、Step ...
- Coooco Clock "Black Forest"-> Kuckucksuhr „Schwarzwald”

典型的な FrameMaker のブックには複数の FrameMaker ファイルが含まれており、すべてのファイルに同じ宣言部が使用されています。この場合、翻訳労力を軽減し、複数のファイルそれぞれに含まれる同一の宣言部の翻訳を回避する方法があります (4.3.6 : 38 ページ 参照)。

4.3.6 宣言部のテキストの翻訳

複数の FrameMaker ファイルが含まれているブックで、すべてのファイルに同じ宣言部が使用されている場合、翻訳労力を軽減できます。



以下の手順にしたがってください。

- 1 FrameMaker ファイルの 1 つを、宣言部も含めてインポート（[**宣言部の非表示**] を非選択）し、翻訳してエクスポートします。エクスポートされた FrameMaker ファイルには、ターゲット言語に翻訳された宣言部が含まれません。
- 2 ほかの FrameMaker ファイルを、宣言部を含めないでインポート（[**宣言部の非表示**] を選択）し、翻訳してエクスポートします。エクスポートされた FrameMaker ファイルには、ソース言語での宣言部が残ります。
- 3 FrameMaker で、最初に翻訳した（ターゲット言語に翻訳された宣言部を含む）ファイルの書式をほかのファイルに取り込みます（プルダウンメニュー [**ファイル**] [**取り込み**] [**書式**]）。

書式を取り込む際、ソース言語のままの宣言部は、最初に翻訳したファイルの宣言部で置き換えられます。翻訳済みの宣言部は、ソース言語のテキストに変更がなければ、将来的にも使用できます。

この手順には、長所も短所もあります。

- 長所：
 - 書式、変数、マスタページに一貫性がある。翻訳が不統一になることがない。
 - 翻訳分量の軽減（宣言部の翻訳は 1 ファイルでのみ）
- 短所：
 - 書式定義が一致していない FrameMaker 文書またはブックを扱うには、コストも時間もかかり過ぎる。
 - 書式が統一されていない（書式名が同じでも設定が異なる）場合、熟考された書式の相違は消失される。
 - ほかの（宣言部はインポートしなかった）FrameMaker ファイルに追加の宣言部が含まれている場合、ターゲット言語に翻訳されていないため、ソース言語のままになる。

FrameMaker ブックおよび文書の構造が統一されていない場合、短所として述べた現象が起きるのが通常です。また、FrameMaker の機能を十分に使いこなすこともできないかもしれません。

以下の手順を推奨します。

- FrameMaker 文書の構造が良い場合：
 - 手順 1：38 ページ以降に進んでください。

- FrameMaker 文書の構造が良いとは確認できない場合 :
すべての FrameMaker ファイルを宣言部も含めてインポート ([**宣言部の非表示**]) を非選択)、翻訳、エクスポートします。この場合、すべてのファイルのすべての宣言部を翻訳する必要がありますが、ファジーマッチを頻繁に利用できるはずで

マスタページの翻訳労力の軽減

マスタページのテキストについては、宣言部についてと同様の設定を推奨します。つまり、1ブックの FrameMaker ファイルすべてに1つのマスタページを割り当てると、マスタページの翻訳に費やす労力を軽減できます。このセクションの手順にしたがって操作して下さい。ただし、[**マスタページの非表示**] を選択して下さい。



4.3.7 コンディショナルテキストの表示

FrameMaker ファイルでコンディショナルテキストも翻訳する場合、[**ビュー**][**タグの表示/非表示**] を選択し、[**フルタグの表示**] オプションを選択することを推奨します。すると、コンディショナルテキストが以下のように表示されます。

```
<cond id="1" cond1="Condition name">Conditional text
<CondEnd id="3">
```

非表示のコンディショナルテキストもインポートするかどうか設定できます (4.3.4 "FrameMaker の特殊なファイルタイプの設定" : 35 ページ を参照)。

4.3.8 相互参照の表示

FrameMaker ファイルの相互参照は以下のように表示されます。

詳細は <XRef id="56" result="4.3 "FrameMaker" 33 ページ "/> を参照して下さい。

相互参照は保護されており、翻訳中は変更できません。相互参照の内容 (例の 4.3 "FrameMaker" : 33 ページ) は翻訳できません。また、翻訳不要です。相互参照はエクスポート後、FrameMaker 上で更新されます。

4.3.9 長い索引マーカ

FrameMaker の索引エントリは、255 文字以内です。エクスポート時、長い索引エントリは 255 文字以下に保存され、以下の警告が表示されます。

「[**フィルタリング**] フィルタエラー : テキストフィールドが長すぎます。短くして下さい。」

該当する索引エントリを短くしてから、ファイルをエクスポートします。

4.4 InDesign

4.4.1 概要

InDesign から Transit ヘデータ変換するには、STAR Transit Text-and-Code 形式を使用します。

InDesign プラグインを使用することによって、InDesign 文書をエクスポート (4.4.2 : 40 ページ 参照)、また Transit でインポートできます。

文書を Transit で翻訳したら、Transit からエクスポートし、InDesign でエクスポートしたファイルを開いて保存します (4.4.3 : 41 ページ 参照)。



別売りフィルタはライセンス番号によって使用が可能

これらのファイルをインポートするために必要なフィルタはオプションであり、標準装備されていません。フィルタを使用するにはライセンス番号が必要です。Transit をインストールしても希望するオプションフィルタが使用できない場合は、弊社の営業担当にお問合せください。



InDesign のプラグイン

InDesign 1.5/2.0 のプラグインを無償で提供しています。Transit XV インストール CD の [**アクセサリ**] フォルダに格納されています。プラグインのインストーラについては、インストールマニュアルを参照してください。

InDesign CS 用のプラグインは、通常、含まれていないことに注意して下さい。ご希望の場合、弊社の営業担当にお申し込みください。



サポートされている InDesign のバージョン

InDesign および Transit 間でデータを変換するには、InDesign 1.5/2.0 または InDesign CS のプラグインが必要です。その他のバージョンの InDesign ではプラグインは動作しません。

4.4.2 InDesign 文書を Transit 用にエクスポート

InDesign 文書を Transit 上で翻訳するには、InDesign 文書を STAR Transit Text-and-Code 形式 (拡張子「ttcj」) にエクスポートします。

このファイルを Transit でインポートします。

InDesign 文書を STAR Transit Text-and-Code 形式にエクスポートする方法



- 1 文書を InDesign で開きます。
- 2 **[ファイル][データ書き出し]** を選択します。
[書き出し] ウィンドウが表示されます。
 - **[ファイルの種類]** で、[STAR Transit Text-and-Code] を選択します。
 - エクスポート先のフォルダおよび ttc ファイルの名前を選択します。
 - 選択を確認し、**[保存]** をクリックします。

InDesign 文書が ttc ファイルにエクスポートされます。このファイルをインポートし、翻訳します。

4.4.3 翻訳済みファイルを InDesign 文書として保存

Transit で翻訳したファイルを STAR Transit Text-and-Code 形式にエクスポートしたら、エクスポートしたファイルを InDesign で開き、InDesign 文書として保存します。

エクスポートして開くには同じバージョンの InDesign を使用

ターゲット言語に翻訳された ttc ファイルは、オリジナル文書をエクスポートしたときに使用した同じバージョンの InDesign で開きます。InDesign CS でエクスポートした ttc ファイルは、InDesign 1.5/2.0 では開くことはできません。

そのような場合、**[ファイルを開くことができません]** ウィンドウが表示されます。



翻訳済みファイルを開いて InDesign 文書として保存する方法



- 1 InDesign で **[ファイル][開く]** を選択します。
[ファイルを開く] ウィンドウが表示されます。
 - **[ファイルの種類]** で、[STAR Transit Text-and-Code] を選択します。
 - 開くファイルの保存先およびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、**[開く]** をクリックします。
 ファイルが開きます。
- 2 **[保存][別名で保存]** を選択します。
[ファイルの保存] ウィンドウが表示されます。
 - **[ファイルの種類]** で、[InDesign 文書] を選択します。
 - 保存先のフォルダおよびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、**[保存]** をクリックします。

ファイルは InDesign 文書として保存されます。これで翻訳済みのファイルを InDesign 文書として使用できます。

4.5 Interleaf

4.5.1 概要

Interleaf では、標準として、文書はバイナリ形式で保存されます。Interleaf と Transit のデータ交換には ASCII 形式文書を用います。

Interleaf で、文書を ASCII 形式として保存できます (4.5.2 : 42 ページ 参照)。このファイルを Transit へインポートできます。

文書を Transit で翻訳したら、Transit からエクスポートし、ASCII 形式のファイルを Interleaf で開いてバイナリ形式に保存できます (4.5.3 : 43 ページ 参照)。

Interleaf 文書を翻訳するためのヒントは 4.5.4 : 43 ページ を参照してください。



別売りフィルタはライセンス番号によって使用が可能

これらのファイルをインポートするために必要なフィルタはオプションであり、標準装備されていません。フィルタを使用するにはライセンス番号が必要です。Transit をインストールしても希望するオプションフィルタが使用できない場合は、弊社の営業担当にお問合せください。

4.5.2 Transit へインポートするために Interleaf 文書を ASCII 形式で保存

Interleaf 文書を Transit で翻訳するため、ASCII 形式で保存する必要があります。このファイルを Transit でインポートします。

Interleaf 文書を ASCII 形式で保存する方法

- 1 文書を Interleaf で開きます。
- 2 [ファイル][名前を付けて保存]を選択します。
[名前を付けて保存]ウィンドウが表示されます。
 - [ファイルの種類]で、[リリース 5 ASCII (*.doc)]を選択します。
 - 保存先のフォルダおよびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、[保存]をクリックします。

文書は ASCII 形式として保存されます。このファイルをインポートし、翻訳します。

Interleaf ファイルがバイナリ形式または ASCII 形式で保存されていることを確認する方法

- 1 Interleaf ファイルをテキストエディタで開きます。
- 2 ファイルの先頭にあるエントリをチェックします。

- OPS - Interleaf ファイルはバイナリ形式で保存されています。
- <!OPS> - Interleaf ファイルは ASCII 形式で保存されています。

Interleaf で生成されるファイル

Interleaf ファイルを開くと、ildoc,9 または ildoc@ などの拡張子が付いたファイルが生成されます。

これらのファイルは Transit 上では特に重要ではありません。Transit では拡張子が doc である ASCII 形式のファイルしかインポートされません。



4.5.3 翻訳済みの ASCII ファイルをバイナリ形式として保存

Transit で翻訳された ASCII 形式ファイルを受け取り、Interleaf で開いてバイナリ形式に保存できます。

翻訳済み ASCII ファイルを開いてバイナリ形式に保存する方法

- 1 Interleaf で、[ファイル][開く]を選択します。
[ファイルを開く]ウィンドウが表示されます。
 - 開く ASCII ファイルの保存先およびファイル名を選択します。
[ファイルを開く]ウィンドウには、ASCII 形式の文書だけでなく、バイナリ形式の文書も表示されます。Transit で翻訳の済んだ ASCII 形式のファイルを選択するように注意してください。
 - 選択を確認し、[開く]をクリックします。
ファイルが開きます。
- 2 [ファイル][名前を付けて保存]を選択します。
[名前を付けて保存]ウィンドウが表示されます。
 - [ファイルの種類]で、[高速 (*.doc)]を選択します。
 - 保存先のフォルダおよびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、[保存]をクリックします。

文書はバイナリ形式として保存されます。これで翻訳済みのファイルをバイナリ形式の Interleaf 文書として使用できます。



4.5.4 複数のサブフォルダが含まれる Interleaf プロジェクトの翻訳

Interleaf のプロジェクトでは複数のサブフォルダ（ブック）にファイルが保存されていることが頻繁にあります。Transit にはそうしたプロジェクトでの作業を容易にする機能があります。

[プロジェクト][設定]メニューで[ファイル]タブを選択し、インポートするファイルを指定する場合、フォルダおよびその中のサブフォルダをすべて選択できます。[フォルダの選択]ウィンドウで、[サブフォルダを含む]を選択します。

以下の手順で作業が行われます。

- 選択したフォルダおよびサブフォルダの ASCII 形式ファイルがすべてインポートされます。
したがって、1 つずつフォルダまたはサブフォルダを指定し、ASCII 形式ファイルをインポートをする必要はありません。
- エクスポート時、同じフォルダ構成が作成され、ASCII 形式ファイルが各フォルダにエクスポートされます。
ASCII 形式ファイルをエクスポートした後、各フォルダに自分で「分類」する必要はありません。

4.6 PageMaker



別売りフィルタはライセンス番号によって使用が可能

これらのファイルをインポートするために必要なフィルタはオプションであり、標準装備されていません。フィルタを使用するにはライセンス番号が必要です。Transit をインストールしても希望するオプションフィルタが使用できない場合は、弊社の営業担当にお問合せください。

4.6.1 非表示のレイヤーを翻訳

Adobe PageMaker では、レイヤーを作成できます。レイヤーを表示させるかどうかはユーザが決定できます。

Transit へインポートする際、デフォルトでは表示/非表示には関わらずすべてのレイヤーのテキストがインポートされます。

pm.ini ファイルのパラメータを使用して、アクティブなレイヤーのテキストのみをインポートできます。この場合、エクスポート時に非表示のレイヤーのテキストが取り込まれます。ファイルは Transit インストールフォルダのサブフォルダ config\sys にあります。

以下の行をファイルに入力します。

- TextFromInvisibleLayers=<value>
- 可能な値 :
0 - 非表示のレイヤーのテキストは一切インポートされません。インポートされないテキストは翻訳できません。エクスポートの際、これらのテキストはソース言語で取り込まれます。

1 (デフォルト) – すべてのレイヤーのすべてのテキストがインポートされ、Transit エディタで表示されます。非表示のレイヤーのテキストもすべて翻訳できます。

- 例 :

TextFromInvisibleLayers=0

非表示のレイヤーのテキストはインポートされません。

翻訳済みの PageMaker 文書の確認

非表示のレイヤーのテキストも翻訳し、翻訳済み文書を確認する際、PageMaker ではすべてのレイヤーを表示させます。そうしなければ、非表示のレイヤーの翻訳テキストを確認できません。



PageMaker 用の追加パラメータ

PageMaker 用の追加パラメータは 5.2 "pm.ini ファイルのパラメータ": 54 ページにまとめてあります。これらのパラメータは pm.ini ファイルでも使用されています。



4.6.2 PageMaker のインストール

PageMaker ファイルをインポート／エクスポートすると、自動的に PageMaker プログラムが開きます (図 4-2)。したがって、Transit をインストールした PC には PageMaker をインストールする必要があります。

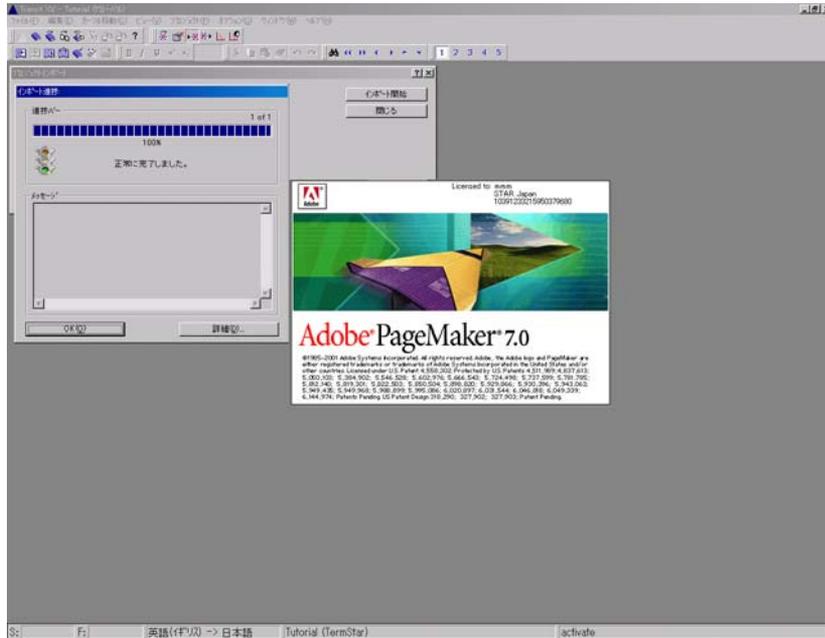


図 4-2: Transit でインポート中に PageMaker が開く



PageMaker が見つからない

PageMaker を複数回異なるフォルダにインストールしていることなどが原因で、PageMaker プログラムが見つからない場合、以下のメッセージが表示されます。
Error: PM: Cannot run PM: Win Exec Failed

この場合、star.ini ファイルに、PageMaker および PageMaker テーブルエディタがインストールされているパス名を明示します。Windows NT の場合、star.ini ファイルはフォルダ \winnt に保存されています。

以下にしたがって PageMaker プログラムのパス名およびファイル名を指定します。

[PageMaker]

Exe60=<Path><PageMaker 6.0 program file>

Exe65=<Path><PageMaker 6.5 program file>

Exe70=<Path><PageMaker 7.0 program file>

Table30=<Path><PageMaker table editor program file>

例 :

```
[PageMaker]
Exe65=C:\programs\Adobe\PageMaker6.5\PM65.EXE
Table30=C:\programs\Adobe\PageMaker6.5\TABLE30\Table30.EXE
```

4.6.3 PageMaker のバージョンが異なる場合のエクスポートメッセージ

使用されている PageMaker バージョンがファイルの拡張子に表示されているバージョンと一致しているかチェックできます。

バージョンが異なると、以下のメッセージが表示されます。
File format isn't corresponded with filter.

メッセージは、ファイルが作成された PageMaker のバージョンと、エクスポートで呼び出される PageMaker のバージョンが異なっている、という内容に過ぎません。
例 : PageMaker 6.5 is called up when exporting a PageMaker 6.0 file. しかし、通常、エクスポートは順調に実行されます。

必要に応じ、エクスポート中に PageMaker のバージョンを比較し、メッセージを表示させるかどうか指定できます。詳細は 5.2 "pm.ini ファイルのパラメータ"、パラメータ "WarningCorrespondedVersion" : 56 ページ を参照してください。

4.6.4 PageMaker インポートの改善

PageMaker ファイルのインポートおよびエクスポートに問題がある場合、pm.ini ファイルのパラメータを変更し、動作を改善できます。これらの変更はインポートおよびエクスポートの所要時間に影響します。

このパラメータは、デフォルトではインポートの速度優先に設定されています。しかし、この設定がシステム環境によっては動作を不安定にすることがあります。パラメータの詳細は 5.2 "pm.ini ファイルのパラメータ" : 54 ページ を参照してください。

デフォルト値で希望する結果が得られない場合、以下のパラメータの変更を推奨します (表 4-2)。

パラメータ	デフォルト値	変更値
RestartCount	5000	500
UseTagetText	1	0
BrakeCount	0	10
BrakeTime	0	1000
WaitAfterStart	10000	30000

表 4-2: pm.ini ファイルのパラメータの変更値

4.6.5 エクスポート済み文書の「タグ付きテキスト」

エクスポートした PageMaker 文書に不要なタグが含まれる場合、pm.ini ファイルを変更し、改善できます。

パラメータ UseTagText=0 の値を変更します。詳細は 5.2 "pm.ini ファイルのパラメータ"、パラメータ "UseTagText" : 55 ページ を参照してください。

4.6.6 DDE 接続

「DDE 接続」により、インポートまたはエクスポートのために Transit は PageMaker とデータの受け渡しを行いません。システムの状態により DDE 接続が失敗したり、消失することもあります。pm.ini ファイルのパラメータを変更し、DDE 接続を安定させることができます。DDE 接続に問題がある場合、以下のメッセージが表示されます。

- 「DDE 接続に失敗しました」
このエラーが発生した場合、RestartCount パラメータの値を減らし、BrakeTime パラメータの値を増やします。パラメータの詳細は 5.2 "pm.ini ファイルのパラメータ"、パラメータ "RestartCount" : 54 ページ および "BrakeTime" : 55 ページ を参照してください。
- 「DDE 接続が消失しました」
このエラーが発生した場合、BrakeCount パラメータの値を 1000 に、BrakeTime パラメータの値を 1 に設定します。パラメータの詳細は 5.2 "pm.ini ファイルのパラメータ"、パラメータ "BrakeCount" : 55 ページ および "BrakeTime" : 55 ページ を参照してください。

4.6.7 PageMaker を Transit でインポートするときの改善のヒント

一般的に、PageMaker 文書のインポートおよびエクスポートの実行は、操作が実行されているコンピュータの構成に大きく依存しています。あるコンピュータで PageMaker ファイルのインポートおよびエクスポートに成功しても、ほかのコンピュータでもインポートおよびエクスポートに成功するというわけではありません。

pm.ini ファイルのパラメータを変更するのは別に、以下の方法を試すこともできます。

- ファイルを別名で保存する。
PageMaker 上でファイルを別名で保存し、そのファイルを Transit でインポートする。
場合によっては、新規ファイルを別名で保存してインポートすると成功します。
- プリンタおよびフォントをチェックする。
インポートおよびエクスポート中にファイルが開いた時、存在していないフォントまたはプリンタが指定されている場合、問題が生じることがあります。し

たがって、使用されているプリンタまたはフォントが有効であるかどうか確認し、必要に応じて設定を変更します。

4.6.8 Macintosh 版 PageMaker ファイル

顧客から受け取った PageMaker ファイルが Macintosh 版でも、Transit でインポートするとき、自動的に PageMaker (Windows 版) ファイルが開きます。

Macintosh 版および Windows 版の PageMaker のバージョンにより、Macintosh 版の PageMaker ファイルを開く際、ファイルが壊れることがあります。したがって、Transit で PageMaker ファイルを自動的に開けなくなります。

Macintosh 版 PageMaker ファイルで問題が生じた場合、以下にしたがってファイルを事前処理します。

Macintosh 版 PageMaker ファイルを事前処理する方法

- 1 Windows 版 PageMaker でファイルを開きます。
- 2 PageMaker でファイルが開かれるまで、メッセージを確認します。
- 3 ファイルを別名で保存します (4.6.7 : 48 ページ も参照)。

そのファイルを Transit でインポートできます。



4.7 Visio

Visio と Transit のデータ交換には XML drawing を用います。

Visio を使用して、文書を XML drawing として保存できます (4.7.1 : 50 ページ 参照)。このファイルを Transit へインポートできます。

文書を Transit で翻訳したら、Transit からエクスポートします。そして、Visio で XML drawing として開き、Visio 文書として保存します (4.7.2 : 50 ページ 参照)。

別売りフィルタ – インストール時のパスワード

これらのファイルをインポートするために必要なフィルタはオプションであり、標準装備されていません。フィルタは別途インストールする必要があり、インストール時にはパスワードが要求されます。詳細は弊社の営業担当へお問合せください。



フィルタのインストール方法については「Transit XV - インストール」マニュアルを参照してください。

4.7.1 Transit へインポートするために Visio 文書を XML drawing として保存

Visio 文書を Transit で翻訳するため、XML drawing として保存する必要があります。このファイルを Transit でインポートします。



Visio 文書を XML drawing として保存する方法

- 1 文書を Visio で開きます。
- 2 **[File][Save as]** を選択します。
[Save drawings] ウィンドウが表示されます。
 - **[ファイルの種類]** で、**[XML drawing]** を選択します。
 - 保存先のフォルダおよびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、**[保存]** をクリックします。

文書は XML drawing として保存されます。このファイルをインポートし、翻訳します。

4.7.2 翻訳済みの XML drawing を Visio 文書として保存

Transit で翻訳された XML drawing を受け取り、Visio で開いて Visio 文書として保存できます。



翻訳済みの XML drawing を開いて Visio 文書として保存する方法

- 1 Visio で、**[File][Open]** を選択します。
[Open file] ウィンドウが表示されます。
 - 開く XML drawing の保存先およびファイル名を選択します。
[Open file] ウィンドウには、XML drawing (vsx) だけでなく Visio 文書 (vsd) も表示されます。Transit で翻訳の済んだ XML drawing (vsx) を選択するように注意してください。
 - 選択を確認し、**[開く]** をクリックします。
ファイルが開きます。
- 2 **[File][Save as]** を選択します。
[Save] ウィンドウが表示されます。
 - **[ファイルの種類]** で、**[Drawing]** を選択します。
 - 保存先のフォルダおよびファイル名を選択します。
 - 選択を確認し、**[保存]** をクリックします。

拡張子が vsd である Visio 文書としてファイルが保存されます。これで翻訳済みのファイルは Visio 文書として使用できます。

4.8 XGate

QuarkXPress ファイルを Transit 上で作業できる形式にする最も容易な方法は、QuarkXPress XTension「XGate」を使用することです。この場合、QuarkXPress のドキュメントは Transit 用の特殊なファイル形式で保存されます。

XGate はテキストをレイアウト情報から分離します。レイアウト情報についての「タグ」がテキストに付随されます。XGate を使用すれば、テキストボックスが連結されていても特に問題ありません。

Transit でこのテキストファイルをインポートし、翻訳できます。エクスポートした翻訳済みのテキストファイルを XGate で QuarkXPress に取り込むと、自動的にオリジナルのレイアウトが再現されます。

5 付録

5.1 ファイルの要素

ファイル形式を問わず、オリジナルファイルにあるほとんどすべての要素をインポートできます。特定のファイル要素に関する特徴を表 5-1 にまとめてあります。

要素	特徴
マーカ（索引、用語解説、ハイパーテキストなど）	オリジナルのファイルのマーカに複数のエントリが含まれている場合、エントリを1つのみ含む複数の索引マーカに分割される。
変数	変数の名前ではなくテキスト中の変数の値を表示。
計算式	専用エディタ（例：FrameMaker 公式エディタ）で作成された方程式と公式の中のテキストはインポートされない。
クロスリファレンス定義	クロスリファレンスの定義ではなく、テキスト中のクロスリファレンスの内容を表示。
グラフィックのテキスト	該当するプログラムで作成したグラフィック内のテキストまたはグラフィックフレームのテキストをインポート可能。 PhotoShopのように、グラフィックの一部となったテキストはインポート不可。
特殊文字	等幅スペース、ハイフンのような特殊文字はそのまま。
引用符	引用符号は変更されない。
言語情報	エクスポート時、ハイフネーションなどの言語情報がターゲット言語で自動的に変更。 言語に割り当てなかったテキストは、言語情報なしのまま。
オブジェクト	インポート済み OLE オブジェクトの内容をインポートできる。 OLE オブジェクトのファイルの種類は自動的に認識される。しかし、インポートフィルタがインストールされているオブジェクトのみインポート可能。

表 5-1: Transit がインポートできる要素と特徴

5.2 pm.ini ファイルのパラメータ

PageMaker ファイルのインポートおよびエクスポートに使用されるパラメータは、pm.ini ファイルで指定されています。ファイルは Transit インストールフォルダのサブフォルダ config\sys にあります。

すべての PageMaker ファイルおよびコンピュータに対して最適なデフォルト値というものはありません。したがって、インポートおよびエクスポートを最適化するため、各変数の設定をテストする必要が発生する可能性があります。詳細は 4.6 "PageMaker" : 44 ページ を参照してください。



pm.ini ファイル変更後は保存して閉じる

pm.ini ファイルを変更した場合、保存してから閉じます。そして、PageMaker 文書を再度インポートします。変更した値が使用されます。

pm.ini ファイルには以下のパラメータが含まれます (表 5-2)。

パラメータ	意味
TextFromInvisibleLayers	非表示のレイヤーを翻訳 (4.6.1 "非表示のレイヤーを翻訳" : 44 ページ 参照)
RestartPM	PageMaker を呼び出す場合、再起動するかどうかを指定できる。 可能な値 : 0 : PageMaker は再起動されない。 1 (推奨) : PageMaker は再起動される。 RestartCount を使用し、PageMaker を呼び出す回数を指定する。
RestartCount	PageMaker を呼び出す回数。RestartPM も合わせて参照。 値 : PageMaker を呼び出す回数。 推奨値 : 15000

表 5-2: pm.ini ファイルのパラメータ

パラメータ	意味
UseTaggetText	<p>PageMaker のテキストをインポートおよびエクスポートする場合、「タグ付きテキスト」を使用するか指定する。</p> <p>データ変換は「タグ付きテキスト」を使用した方が速い。しかし、フォント属性の処理時、属性が失われる、または間違った定義がされるなどの問題が発生することがある。</p> <p>可能な値 :</p> <p>0 : 「タグ付きテキスト」が使用されない。 1 : 「タグ付きテキスト」が使用される。</p>
BrakeCount	<p>PageMaker を呼び出す場合、その間隔を指定できる。</p> <p>値 :</p> <p>PageMaker を呼び出す回数。</p> <p>推奨値 : 0</p> <p>BrakeTime で、呼び出す間隔を指定する。</p>
BrakeTime	<p>PageMaker を呼び出す間隔。BrakeCount も合わせて参照。</p> <p>値 :</p> <p>PageMaker を呼び出す間隔 (ms)</p> <p>推奨値 : 0</p>
WaitAfterStart	<p>PageMaker に接続する前に、PageMaker を起動した後でウィンドウを表示「しない」間隔を指定する。</p> <p>値 :</p> <p>PageMaker を呼び出す間隔 (ms)</p> <p>推奨値 : 10000</p>
Win98DDEConnectionCount	<p>PageMaker への DDE 接続が Windows 98 では不安定な場合がある。</p> <p>DDE 接続を何度リクエストした後に再度初期化するか指定できる。</p> <p>値 :</p> <p>リクエストの回数</p> <p>推奨値 : 100</p>

表 5-2: pm.ini ファイルのパラメータ (続き)

パラメータ	意味
MinimWindowPM	<p>フィルタリング時、PageMaker ウィンドウを表示する回数を最小化するか指定できる。</p> <p>システムの状態により、PageMaker ウィンドウを最小化した場合、DDE 接続に失敗する場合もある。</p> <p>PageMaker ウィンドウを最小化しない場合、DDE 接続は安定するが、フィルタリングは遅くなる。</p> <p>可能な値：</p> <p>0：ウィンドウを最小化しない。</p> <p>1（推奨）：ウィンドウを最小化する。</p>
WarningCorrespondedVersion	<p>PageMaker のバージョンが異なる場合のエクスポートメッセージ（4.6.3 "PageMaker のバージョンが異なる場合のエクスポートメッセージ"：47 ページ 参照）</p> <p>可能な値：</p> <p>0：バージョンが比較されない。</p> <p>1：バージョンが比較され、必要に応じて警告メッセージが表示される。</p>

表 5-2: *pm.ini* ファイルのパラメータ（続き）